

# ネアンデルタール人消滅の謎

われわれ現代人の分類学上の学名は「ホモ・サピエンス・サピエンス」です。「ホモ」は「人間」、「サピエンス」は「賢明」を意味するラテン語です。肌の色や顔のあたりは違っても現代人は生物学的には同じ種（しゅ）です。生活環境の違いから肌の色がちがったりしてもそれらはあくまで環境に適応した結果です。アメリカに奴隷としてつれてこられたアフリカ系アメリカ人の中には、白人と結婚した人もあり、いまでは



## 続 僕の講義ノート⑦



大阪府立大学先端科学研究所

森 利明

(もりとしあき)

皮膚の色がわれわれと同じくらいの人や、外見上は白人とまったく見分けのつかない人もいます。人は誰と結婚しても子供をつくることができず。これが生物学的には同じであることによるもの証拠です。

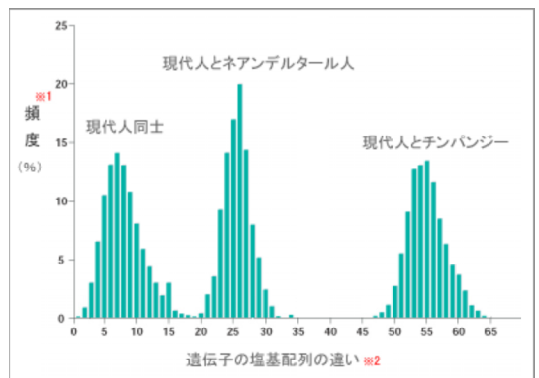
### ネアンデルタール人は現代人と違う種

現代人を新人類とすると、ネアンデルタール人は旧人類に属します。一八五六年にドイツのネアンデルタール渓谷でヒトのものと思わ

れる化石が発見されたことからこのように呼ばれています。最近このネアンデルタール人の化石に残っているミトコンドリアDNAを抽出して塩基配列の研究がおこなわれました。その結果ネアンデルタール人はわれわれ現代人とはちがう種であることが分かりました。混血さえなかったと結論づけられました。

### ネアンデルタール人はなぜ「消滅」したのか

ネアンデルタール人に代表される旧人類は、死者を埋葬したり、老人やけがらのめんどうをみていた証拠が数多く発見されています。精神面ではわれわれと大きな差はなかったのではないかと考えられています。石器製造の技術も原人よりはるかに優秀で、トナカイなどを捕らえていた様子が遺跡からわかります。しかし



ネアンデルタール人の遺伝子（ミトコンドリアDNAを含む）は現代人とどけが違つか

縦軸※1：それぞれの違いの人が何人（%）いるか  
横軸※2：何個塩基配列が違っているか

このグラフからわかることは、チンパンジーが現代人と遺伝的に違うグループであると同じように、ネアンデルタール人は現代人も明らかに違うグループに属することがわかる。

彼らがなぜ「消滅」したのかその理由はわかっていません。きびしい氷河期には適応できたものの、地球が徐々に温暖化して環境が変化するなかで、まるで氷河がとけるように消えてしまいました。

動生活から、農耕による定住生活へ生活様式を大きく変えました。食料の安定的な確保は人口の増加につながります。さらに近年になって産業を飛躍的に発展させ、膨大なエネルギーを放出して地球環境に深刻な影響を与えています。このような状態がつづくネアンデルタール人が消滅したのと同じことが、いつかわれわれに起こらないともかぎりません。（つづく）

「このままでは現代人もいつか消滅するかも？」  
旧人類にとって代わった新人類は、野生動物を家畜化した小麥やイネなどの栽培をはじめました。それまでの狩猟採集が中心の移

【編集部】次回は執筆者が海外出張のためお休みです。